

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-130385
(P2024-130385A)

(43)公開日 令和6年9月30日(2024.9.30)

(51)国際特許分類			F I			テーマコード (参考)		
E 0 4 F	19/08	(2006.01)	E 0 4 F	19/08	1 0 2 F	3 L 0 5 8		
F 2 4 F	7/10	(2006.01)	F 2 4 F	7/10	A	3 L 0 8 1		
F 2 4 F	7/06	(2006.01)	F 2 4 F	7/06	P			
F 2 4 F	13/08	(2006.01)	F 2 4 F	13/08	A			
A 4 7 B	81/00	(2006.01)	E 0 4 F	19/08	1 0 2 E			
			審査請求	未請求	請求項の数	12	O L	(全13頁) 最終頁に続く
(21)出願番号			特願2023-40066(P2023-40066)			(71)出願人		
(22)出願日			令和5年3月14日(2023.3.14)			000133445		
						株式会社ダスキン		
						大阪府吹田市豊津町1番33号		
						(74)代理人		
						100129791		
						弁理士 川本 真由美		
						(74)代理人		
						100184343		
						弁理士 川崎 茂雄		
						(72)発明者		
						田中 豊一		
						大阪府吹田市豊津町1番33号 株式会		
						社ダスキン内		
						Fターム (参考)		
						3L058 BG01		
						3L081 AA03		

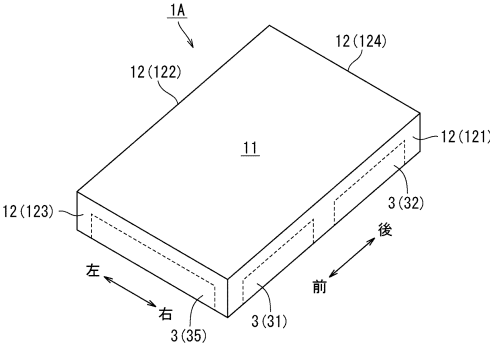
(54)【発明の名称】 載置台ブロック及び載置台

(57)【要約】

【課題】換気扇を収容室内の手前の位置に設置した場合であっても、換気扇に至る空気の流れの安定化を図ることができる、載置台を、構成できる載置台ブロック、を提供すること。

【解決手段】底面に換気扇を備えた収容室の底面に敷設される載置台を構成する載置台ブロック1Aであって、平面視矩形の平板部11と、平板部11を所定高さに支持する4つの周壁部12と、からなっており、1つ以上の周壁部12は、周壁部12に対する貫通領域を任意に形成できる貫通形成構造3を有しており、所定高さは、換気扇の吸気口の高さよりも高い、ことを特徴としている。

【選択図】図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底面に換気扇を備えた収容室の底面上に敷設される載置台を構成する載置台ブロックであって、

平面視矩形の平板部と、前記平板部を所定高さに支持する 4 つの周壁部と、からなり、1 つ以上の前記周壁部は、前記周壁部に対する貫通領域を任意に形成できる貫通形成構造を有しており、

前記所定高さは、前記換気扇の吸気口の高さよりも高い、
ことを特徴とする載置台ブロック。

【請求項 2】

前記平板部が、前記換気扇をメンテナンスするための覗き孔と、前記覗き孔を開閉する蓋と、を有している、

請求項 1 記載の載置台ブロック。

【請求項 3】

前記平板部が、箕の子の形態を有している、

請求項 1 又は 2 に記載の載置台ブロック。

【請求項 4】

前記貫通形成構造が、破砕除去可能な脆弱部からなっている、

請求項 1 又は 2 に記載の載置台ブロック。

【請求項 5】

前記脆弱部は、前記周壁部に形成されたミシン目又は薄肉ラインに沿って切断除去されるようになっている、

請求項 4 記載の載置台ブロック。

【請求項 6】

前記ミシン目又は前記薄肉ラインの、一部に、切込みが形成されている、

請求項 5 記載の載置台ブロック。

【請求項 7】

前記脆弱部は、全体が薄肉に形成されている、

請求項 4 記載の載置台ブロック。

【請求項 8】

前記貫通形成構造が、前記周壁部に対する貫通領域と、前記貫通領域を開閉可能な扉と、を有している、

請求項 1 又は 2 に記載の載置台ブロック。

【請求項 9】

更に、前記平板部が、前記周壁部による前記平板部の支持を補強するための補強脚部を、有している、

請求項 1 又は 2 に記載の載置台ブロック。

【請求項 10】

前記補強脚部は、前記平板部に対して取り外し可能に設けられている、

請求項 9 記載の載置台ブロック。

【請求項 11】

底面に換気扇を備えた収容室の前記底面上に敷設される載置台であって、

請求項 1 記載の載置台ブロックを含んでおり、

前記載置台ブロックは、任意の箇所の前記貫通形成構造によって形成された前記貫通領域を、有している、

ことを特徴とする、載置台。

【請求項 12】

更に、請求項 2 記載の載置台ブロックを含んでおり、

当該載置台ブロックは、前記蓋が前記収容室内の手前の位置に来るように設置されている、

10

20

30

40

50

請求項 1 1 記載の載置台。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、底面に換気扇を備えた収容室の底面上に敷設される載置台を構成する載置台ブロック、及び、当該載置台ブロックを用いて構成された載置台、に関する。なお、収容室としては、例えば、押し入れ、クローゼット、倉庫、納戸、物置などが挙げられる。

【背景技術】

【0002】

近年、押し入れのような収容室の底面に、収容室の換気のために、床下設置型の換気扇が設置されるようになってきている。その場合、収容室の底面上には、簀の子のような載置台を敷設している。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 特開 2022-150222 号公報

【特許文献 2】 特開 2012-180953 号公報

【特許文献 3】 特開 2003-042511 号公報

【特許文献 4】 特開 2002-273147 号公報

【発明の概要】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、簀の子のような載置台を用いた場合には、換気扇に至る空気の流れが不安定であり、効果的な換気を行うのが困難であった。特に、換気扇のメンテナンスの容易化のために、換気扇を収容室内の手前の位置に設置すると、収容室の奥からの空気の流れが、より不安定になっていた。

【0005】

本発明は、換気扇を収容室内の手前の位置に設置した場合であっても、換気扇に至る空気の流れの安定化を図ることができる、載置台、及び、当該載置台を構成できる載置台ブロック、を提供することを目的としている。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の第 1 態様は、底面に換気扇を備えた収容室の底面上に敷設される載置台を構成する載置台ブロックであって、

平面視矩形の平板部と、前記平板部を所定高さに支持する 4 つの周壁部と、からなっており、1 つ以上の前記周壁部は、前記周壁部に対する貫通領域を任意に形成できる貫通形成構造を有しており、

前記所定高さは、前記換気扇の吸気口の高さよりも高い、
ことを特徴としている。

【0007】

40

本発明の第 2 態様は、底面に換気扇を備えた収容室の前記底面上に敷設される載置台であって、

前記第 1 態様の載置台ブロックを含んでおり、

前記載置台ブロックは、任意の箇所の前記貫通形成構造によって形成された前記貫通領域を、有している、

ことを特徴としている。

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、換気扇を収容室内の手前の位置に設けることによって、換気扇のメンテナンスの容易化を図ることができるとともに、その場合であっても、換気扇に至る空気

50

の流れを制御して流れの安定化を図ることができる、載置台を、得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の載置台ブロックと、当該載置台ブロックを用いた載置台と、当該載置台が敷設された収容室と、を示す正面透視図である。

【図2】図1のII矢視透視図である。

【図3】一方の載置台ブロックの斜視図である。

【図4】図3の載置台ブロックの裏面図である。

【図5】図3の載置台ブロックの右側面図である。

【図6】図3の載置台ブロックの正面図である。

10

【図7】脆弱部が切断除去されて形成された、周壁部に対する貫通領域を、示す斜視図である。

【図8】他方の載置台ブロックの斜視図であり、図3に対応している。

【図9】図8のIX-IX断面図である。

【0010】

【図10】両方の載置台ブロックからなる載置台が敷設された押し入れを示す平面略図である。

【図11】両方の載置台ブロックからなる載置台が敷設された押し入れの変形構成を示す平面略図である。

【図12】脆弱部の変形構成の第1例を示す、図6に相当する図である。

20

【図13】脆弱部の変形構成の第2例を示す、図6に相当する図である。

【図14】脆弱部の変形構成の第3例を示す、図6に相当する図である。

【図15】脆弱部の変形構成の第4例を示す斜視図である。

【図16】貫通形成構造の変形構成の一例を示す、図6に相当する図である。

【図17】図3の載置台ブロックの変形構成の一例を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

図1は、本発明の載置台ブロックと、当該載置台ブロックを用いた載置台と、当該載置台が敷設された収容室と、を示す正面透視図である。図2は、図1のII矢視透視図である。この収容室は、押し入れ100である。

30

【0012】

[押し入れ100]

押し入れ100は、直方体の箱形態を有しており、六面で囲まれた内部空間110を有している。六面とは、開閉可能な襖からなる前面101と、後面102と、天面103と、住居の床からなる底面104と、前方から見た場合の右側面105と、左側面106と、である。底面104上には、載置台1が敷設されている。また、換気扇2が底面104を貫通して設けられている。

【0013】

[載置台1]

載置台1は、2つの載置台ブロック（以下、単に「ブロック」と称する）1A、1Bを左右方向に並設して構成されている。また、押し入れ100の底面104には、換気扇2が設置されている。換気扇2は、床下設置型であり、ブロック1Bの下方の床下に設けられている。

40

【0014】

(ブロック1A)

図3は、ブロック1Aの斜視図である。図4は、図3のブロック1Aの裏面図である。図5は、図3のブロック1Aの右側面図である。図6は、図3のブロック1Aの正面図である。ブロック1Aは、平面視矩形の平板部11と、平板部11を所定高さHに支持する4つの周壁部12と、からなっている。ここでは、4つの周壁部12は、長辺の周壁部121、122と、短辺の周壁部123、124と、からなっている。全ての周壁部12は

50

、周壁部 1 2 に対する貫通領域 1 3 (図 7) を任意に形成できる貫通形成構造 3 を有している。具体的には、周壁部 1 2 1 には貫通形成構造 3 1、3 2 が形成されており、周壁部 1 2 2 には貫通形成構造 3 3、3 4 が形成されており、周壁部 1 2 3 には貫通形成構造 3 5 が形成されており、周壁部 1 2 4 には貫通形成構造 3 6 が形成されている。所定高さ H は、換気扇 2 の吸気口 2 1 の高さ H 1 (図 1) よりも高い。

【0015】

平板部 1 1 は、周壁部 1 2 による平板部 1 1 の支持を補強するための補強脚部 1 4 を、有している。補強脚部 1 4 は、周壁部 1 2 と周壁部 1 2 との交差部すなわち平板部 1 1 の角部と、周壁部 1 2 1、1 2 2 の長手方向の中央部と、平板部 1 1 の内部と、に配置されている。補強脚部 1 4 は、平板部 1 1 に対して取り外し可能に設けられている。

10

【0016】

貫通形成構造 3 は、破碎除去可能な脆弱部 3 0 からなっている。脆弱部 3 0 は、周壁部 1 2 に形成されたミシン目 3 0 1 に沿って切断除去されるようになっている。例えば、図 7 に示されるように、脆弱部 3 0 が切断除去されると、周壁部 1 2 には貫通領域 1 3 が形成される。

【0017】

(ブロック 1 B)

図 8 は、ブロック 1 B の斜視図であり、図 3 に対応している。図 9 は、図 8 の IX-IX 断面図である。ブロック 1 B は、次の点のみがブロック 1 A とは異なっており、その他はブロック 1 A と同じ構成を有している。すなわち、図 8 に示されるよう、ブロック 1 B では、平板部 1 1 が、換気扇 2 をメンテナンスするための覗き孔 1 1 1 と、覗き孔 1 1 1 を開閉する蓋 1 1 2 と、を有している。なお、図 8 は、蓋 1 1 2 が閉じた状態を示しているが、図 9 は、蓋 1 1 2 が開いた状態を示している。ブロック 1 B において、覗き孔 1 1 1 及び蓋 1 1 2 は、前方に偏って配置されている。

20

【0018】

押し入れ 1 0 0 において、ブロック 1 B は、覗き孔 1 1 1 及び蓋 1 1 2 が押し入れ 1 0 0 内の手前の位置に来るように、底面 1 0 4 上に敷設されている。

【0019】

図 10 は、ブロック 1 A、1 B からなる載置台 1 が敷設された押し入れ 1 0 0 を示す平面略図である。載置台 1 のブロック 1 A、1 B は、所望の箇所の貫通形成構造 3 によって形成された貫通領域 1 3 を、有している。なお、図 10 では、貫通領域 1 3 を透視して且つわかりやすく示している。具体的には、ブロック 1 A においては、貫通形成構造 3 2 の脆弱部 3 0 が切断除去されて貫通領域 1 3 2 が形成されており、貫通形成構造 3 4 の脆弱部 3 0 が切断除去されて貫通領域 1 3 4 が形成されており、貫通形成構造 3 6 の脆弱部 3 0 が切断除去されて貫通領域 1 3 6 が形成されており、ブロック 1 B においては、貫通形成構造 3 2 の脆弱部 3 0 が切断除去されて貫通領域 1 3 2 が形成されており、貫通形成構造 3 4 の脆弱部 3 0 が切断除去されて貫通領域 1 3 4 が形成されており、貫通形成構造 3 6 の脆弱部 3 0 が切断除去されて貫通領域 1 3 6 が形成されている。

30

【0020】

[作動]

布団 2 0 0 などの収容物が収容された密閉状態の押し入れ 1 0 0 において、換気扇 2 を作動させると、図 10 に示されるように、押し入れ 1 0 0 内の左右両側の空気が矢印 A、B に示されるように流れ、奥の空気が矢印 C、D に示されるように流れて、換気扇 2 に至り、床下へ流れて、戸外へ排出される。これにより、押し入れ 1 0 0 内の湿気が除去される。

40

【0021】

[作用効果]

(1) ブロック 1 B を、覗き孔 1 1 1 及び蓋 1 1 2 が押し入れ 1 0 0 内の手前の位置に来るように、設置できる。したがって、換気扇 2 を押し入れ 1 0 0 内の手前の位置に設けることができる。したがって、換気扇 2 のメンテナンスの容易化を図ることができる。

50

【0022】

(2) 特に矢印Dのような空気の流れを生じさせることができるので、押し入れ100の奥の空気を効率良く換気扇2に集めることができる。したがって、押し入れ100内の湿気を効率良く除去することができる。

【0023】

(3) 周壁部12が多数の貫通形成構造3を有しており、貫通形成構造3がミシン目301に沿って切断除去できる脆弱部30であるので、多数の貫通形成構造3の内から、任意に選択して且つ容易に、貫通領域13を形成できる。したがって、載置台1において、換気扇2に至る空気の流れを制御できる。

【0024】

(4) 換気扇2に至る空気の流れを制御できるので、載置台1に載置される収容物の、種類、状態、収容具合などに応じて、換気扇2に至る良好な空気の流れを実現できる。したがって、押し入れ100の収容物に起因した湿気を押し入れ100から有効に除去できる。

【0025】

以上のように、上記構成のブロック1A、1Bによれば、換気扇2を押し入れ100内の手前の位置に設けることによって、換気扇2のメンテナンスの容易化を図ることができるとともに、その場合であっても、換気扇2に至る空気の流れを制御して流れの安定化を図ることができる、載置台1を、得ることができる。

【0026】

(変形構成)

本発明は、次のような変形構成の1つ又は2つ以上を任意に採用できる。

【0027】

(A) 例えば、収容物の湿気の多い部分が載置台1のブロック1Aの奥側に位置する場合には、貫通領域13は、図11に示されるように、形成されるのが好ましい。具体的には、ブロック1Aにおいては、貫通形成構造34の脆弱部30が切断除去されて貫通領域134が形成されており、貫通形成構造36の脆弱部30が切断除去されて貫通領域136が形成されており、ブロック1Bにおいては、貫通形成構造32の脆弱部30が切断除去されて貫通領域132が形成されている。これによれば、押し入れ100の右奥側の空気を、矢印Eに示されるように、効率良く換気扇2に導くことができ、したがって、押し入れ100内の湿気を有効に除去できる。

【0028】

このように、上記構成の載置台1によれば、換気扇2に至る所望の空気の流れを生じさせることができるので、収容物の状態などに応じて換気扇2に至る良好な空気の流れを得ることができ、したがって、押し入れ100内の湿気を有効に除去できる。

【0029】

(B) 貫通形成構造3である脆弱部30が、図12に示されるように、薄肉ライン302に沿って切断除去されるようになっている。薄肉ライン302は、周壁部12に対して、表面から、又は、裏面から、又は、表裏両面から、溝を形成することによって形成できる。これによっても、脆弱部30を容易に切断除去して貫通領域13を得ることができる。

【0030】

(C) 貫通形成構造3である脆弱部30のミシン目301の一部に、図13に示されるように、切込み303が形成されている。これによれば、脆弱部30を更に容易に切断除去して貫通領域13を得ることができる。なお、図13では、切込み303を、ミシン目301の両側の縦線3011、3012の部分に形成しているが、一方の縦線3011又は3012の部分と、横線3013の部分とに、形成してもよい。

【0031】

(D) 貫通形成構造3である脆弱部30の薄肉ライン302の一部に、図14に示されるように、切込み303が形成されている。これによれば、脆弱部30を更に容易に切断除去して貫通領域13を得ることができる。なお、図14では、切込み303を、薄肉ライ

10

20

30

40

50

ン 3 0 2 の両側の縦線 3 0 2 1、3 0 2 2 の部分に形成しているが、一方の縦線 3 0 2 1 又は 3 0 2 2 の部分と、横線 3 0 2 3 の部分とに、形成してもよい。

【0032】

(E) 貫通形成構造 3 である脆弱部 3 0 は、図 1 5 に示されるように、全体が薄肉に形成されている。これによっても、脆弱部 3 0 を容易に破碎除去して貫通領域 1 3 を得ることができる。

【0033】

(F) 貫通形成構造 3 が、図 1 6 に示されるように、周壁部 1 2 に対する貫通領域 1 3 と、貫通領域 1 3 を開閉可能な扉 3 9 と、を有している。扉 3 9 は、右扉 3 9 1 と左扉 3 9 2 とからなっており、引き戸になっている。なお、図 1 6 (A) は右扉 3 9 1 が開いた状態を示しており、図 1 6 (B) は左扉 3 9 2 が開いた状態を示しており、図 1 6 (C) は右扉 3 9 1 と左扉 3 9 2 とが閉じた状態を示している。

【0034】

(G) ブロック 1 A が、図 1 7 に示されるように、図 3 のブロック 1 A に比して細い形態を有している。すなわち、ブロック 1 A の形態は、図 3 の形態に限られるものではなく、図 1 7 に示されるように細くてもよく、又は、太くてもよく、又は、平面視正形状でもよい。

【0035】

(H) 貫通形成構造 3 が、4 つの周壁部 1 2 の内の任意の 1 ~ 3 つの周壁部 1 2 に形成されている。

【0036】

(I) 1 つの周壁部 1 2 に形成される貫通形成構造 3 の数は、1 つ又は 2 つに限られるものではなく、3 つ以上でもよい。

【0037】

(J) ブロック 1 A の平板部 1 1 が、簀の子の形態を有している。

【0038】

(K) ブロック 1 B の平板部 1 1 が、簀の子の形態を有している。

【0039】

(L) 載置台 1 が、ブロック 1 B のみを用いて構成されている。

【0040】

(M) 載置台 1 が、1 つ以上のブロック 1 B と、2 つ以上のブロック 1 A と、を用いて構成されている。

【0041】

(N) 載置台 1 が、1 つ以上のブロック 1 B の他に、簀の子を含んでいる。この場合、簀の子は、ブロック 1 A とともに用いてもよい。

【0042】

(O) 収容室が、クローゼット又は倉庫又は納戸又は物置である。

【0043】

(P) 吸放湿シートが、押し入れ 1 0 0 の六面、すなわち、前面 1 0 1、後面 1 0 2、天面 1 0 3、底面 1 0 4、右側面 1 0 5、及び左側面 1 0 6、の内の少なくとも一面に、当該面に沿うように且つ当該面の略全面に、設けられている。吸放湿シートは、周辺の空気の湿度が高いほど、空気中の水蒸気を吸い込み、すなわち、吸湿を行い、周辺の空気の湿度が低いほど、空気中に水蒸気を放出する、すなわち、放湿を行う、という性質を、有している。吸放湿シートは、両面テープ又はマジックテープ（登録商標）などによって、各面に取り付けられている。

【0044】

(Q) 図 4 に示されるブロック 1 A において、周壁部 1 2 1、1 2 2 の長手方向の中央部には、補強脚部 1 4 が設けられていない。又は、平板部 1 1 の内部には、補強脚部 1 4 が設けられていない。これらは、ブロック 1 B においても、同様である。

【産業上の利用可能性】

10

20

30

40

50

【 0 0 4 5 】

本発明の載置台ブロックは、換気扇を収容室内の手前の位置に設置した場合であっても、換気扇に至る空気の流れの安定化を図ることができる、載置台を、構成できるので、産業上の利用価値が大である。

【符号の説明】

【 0 0 4 6 】

1 載置台

1 A、1 B 載置台ブロック

1 1 平板部

1 2 (1 2 1、1 2 2、1 2 3、1 2 4) 周壁部

1 3 (1 3 1、1 3 2、1 3 3、1 3 4、1 3 6) 貫通領域

1 4 補強脚部

1 0 0 押し入れ (収容室)

1 0 4 底面

1 1 1 覗き孔

1 1 2 蓋

2 換気扇

2 1 吸気口

3 貫通形成構造

3 0 脆弱部

3 9 (3 9 1、3 9 2) 扉

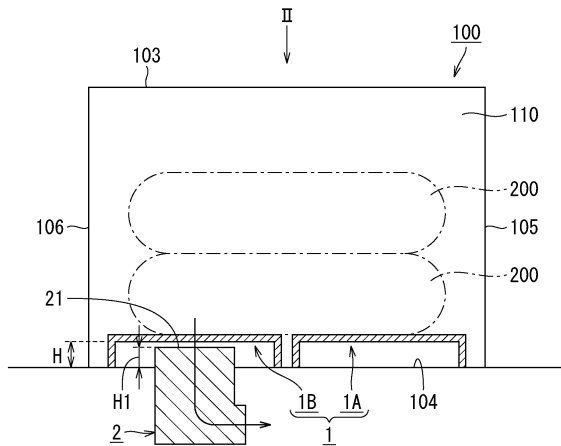
3 0 1 ミシン目

3 0 2 薄肉ライン

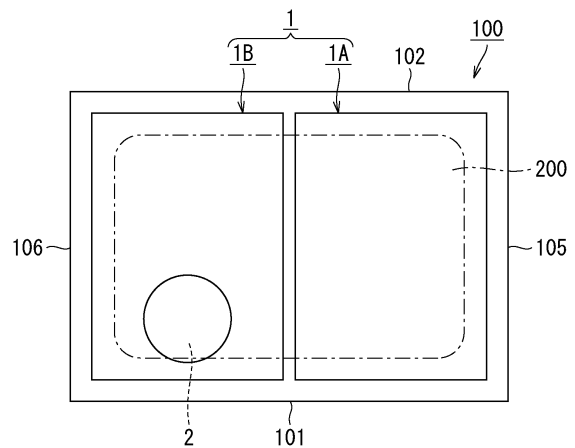
3 0 3 切込み

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

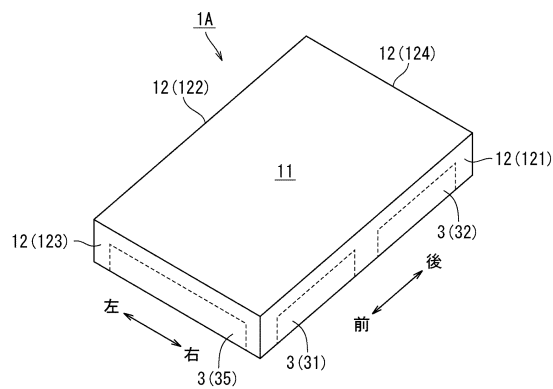
20

30

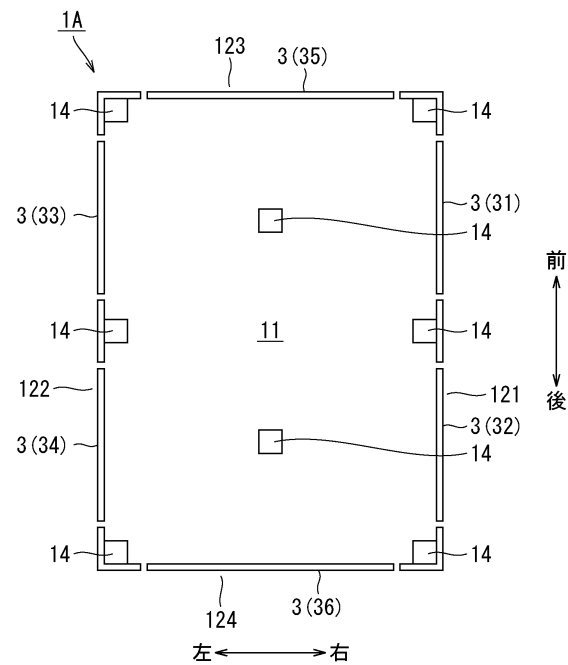
40

50

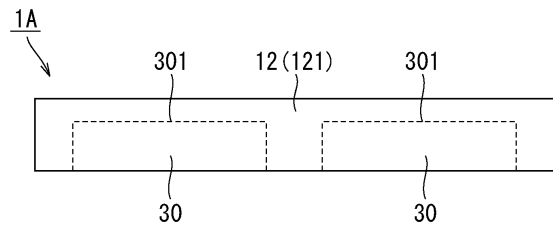
【図 3】



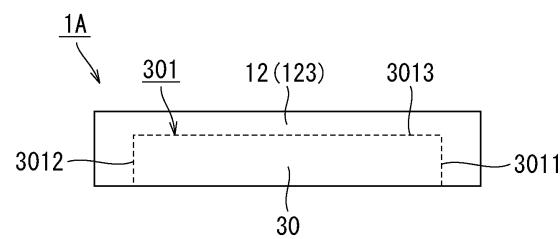
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

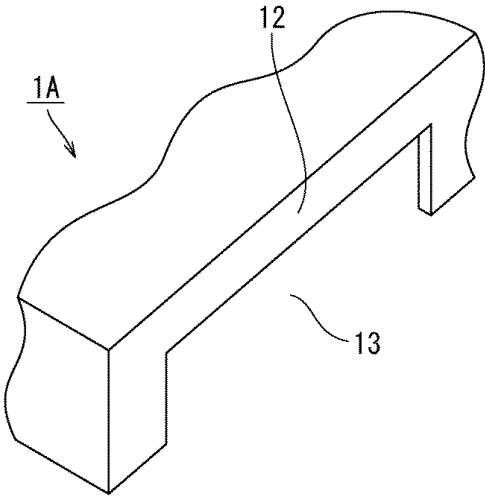
20

30

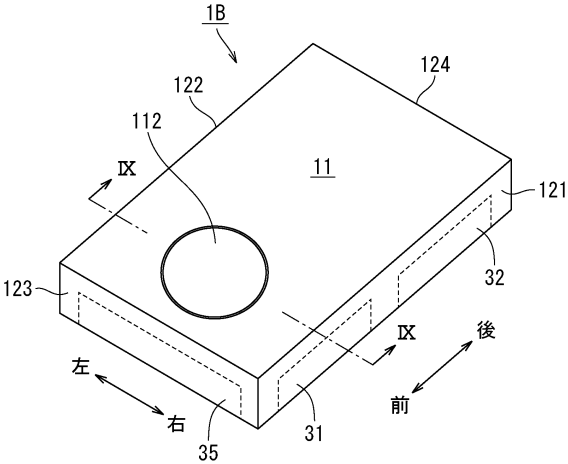
40

50

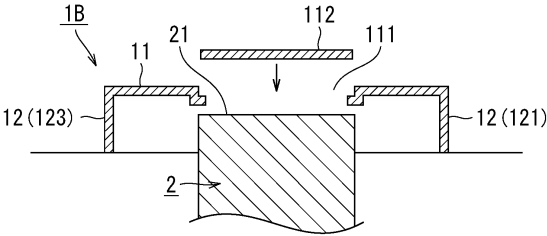
【図 7】



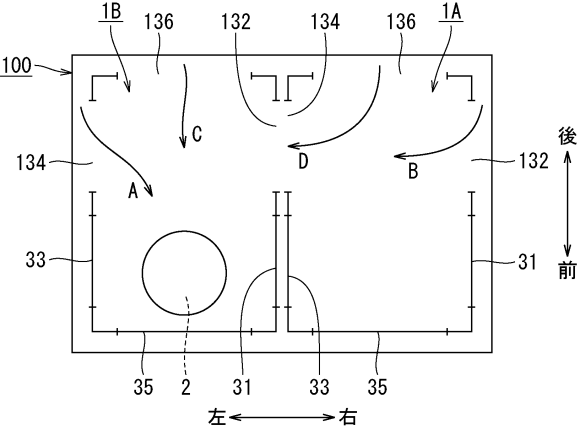
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

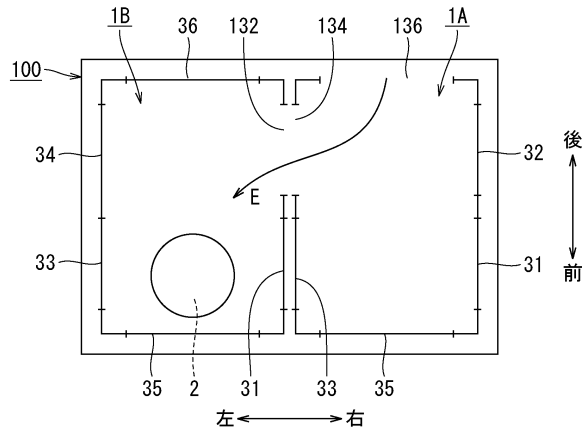
20

30

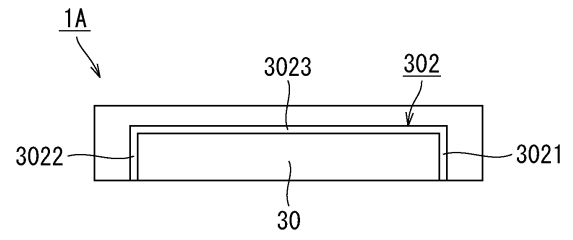
40

50

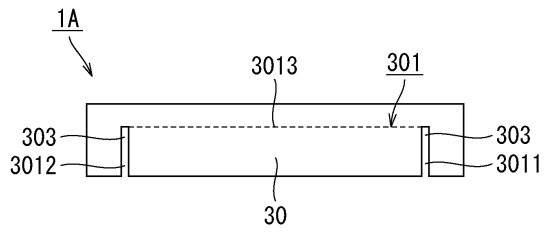
【図 1 1】



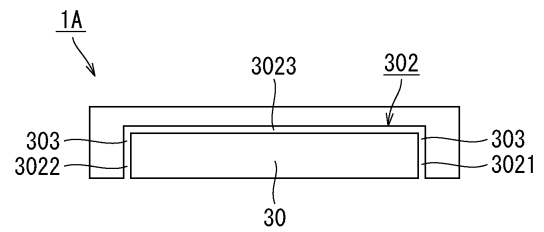
【圖 12】



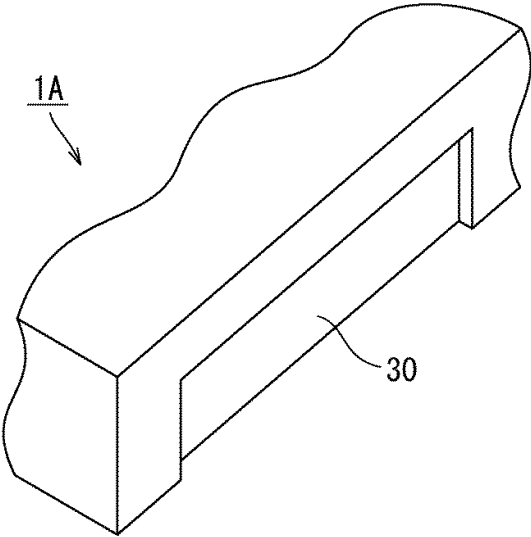
【図 13】



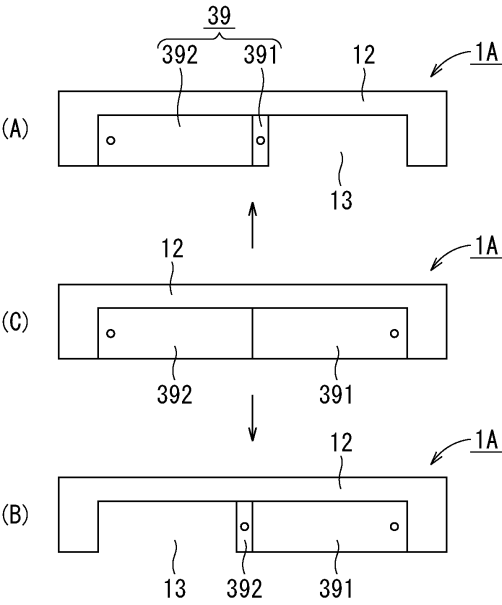
【図 14】



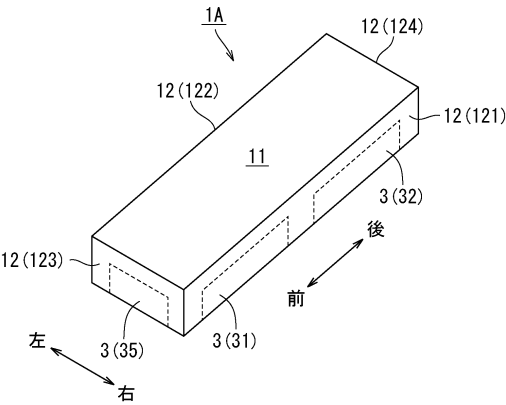
【図 1 5】



【図 1 6】



【図 1 7】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

(51)国際特許分類	F I			テーマコード (参考)
	A 4 7 B	81/00	T	
	A 4 7 B	81/00	M	